

平成27年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	2 - 3 - 6
事務事業名	津波等災害に強い安全なまちづくり推進事業（繰越）			担当課係	危機管理課
総合計画上の位置付け	大項目	1. 「安全」のまちづくり		記入担当者	
	中項目	①災害被害の減少		内線等	
	小項目	3. 地震や津波の被害を軽減する減災のまちづくり		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	臨時事業
事業予算費目	款	9	消防費	項	1
	目	94	防災対策費（繰越明許費）	事業	9
開 始 年 度	平成 26	年度	根拠法令・要綱等	災害対策基本法、津波防災地域づくりに関する法律など	

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 発災時に本市に在住するすべての者（主として市域南部に居住する住民）
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 災害時の避難所への、給水能力の強化を図る。また、防災倉庫を設置し、防災資器材等を分散配備することにより、発災時に自主防災会等の防災関係機関の方々に活用していただくことで、人的被害の軽減を目的とする。
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 災害時の給水拠点の整備として、新築される小松島南中学校の敷地内に、耐震性貯水槽を整備するとともに、非常用飲料水袋を備蓄する。また、あいさい広場みはらしの丘に防災倉庫を設置する。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 新築される小松島南中学校は、市域の南部に位置し、南部に居住する住民に対する非常時の給水拠点として重要な位置づけであると同時に、災害時指定避難所としての避難所機能の強化を進めていく。防災倉庫の整備についても、市域南部の防災用資器材等の分散配置のため整備する。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名			指標の説明				指標化できない成果
	市防災倉庫基数			H27年度に市防災倉庫を設置した基数				
	単位	H26	H27	H28	H29	目標年度 目標値		
基	目 標	2	2			H27	当該事業により、人的被害が軽減できた数	
	実 績	0	2			2		
	達成度	0.0%	100.0%					
活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H26	H27	H28	H29	指標の説明
	非常用飲料水袋	枚	計画	0	10,000			小松島南中学校
		実績	0	10,000				
	飲料用耐震性貯水槽	基	計画	0	1			小松島南中学校
		実績	0	1				
	防災倉庫	基	計画	2	2			あいさい広場みはらしの丘
		実績	0	2				
			計画					
			実績					

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		26年度決算	27年度決算	27年度予算	28年度予算	
全体コスト（円）	A	直接事業費				
	財源内訳	A	0	77,521,712	78,000,000	0
		B		40,142,000		
		C				
		D				
	B	人件費 ①×②	0	563,850		
	B	職員平均人件費①		2,819,250		
B	従事した割合②/人		0.20			
	A + B	0	78,085,562			
単位コスト	活動指標の説明		非常用袋数や防災倉庫設置数		備考	
	活動指標 1 単位当たりコスト		7,807		平成26年4月1日現在 人口40,333人	
	市民一人あたりのコスト		0	1,959	平成27年4月1日現在 人口39,866人	

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 東日本大震災以降の防災対策は、津波災害を想定して実施してきたが、近年の大型台風やゲリラ豪雨等に見られる洪水、土砂災害、また直下型地震等のあらゆる災害を想定した、対策を検討していかなければならない。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 防災倉庫整備後には、自主防災会、消防分団、施設管理者には、合い鍵を渡し周知しているところであるが、一般の市民は設置の実態を知らないという意見もある。各地域にも協力を得て、広報に努めて行く必要がある。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	災害発生後、避難生活を送っていくためには、最低限の衣食住が必要となり、生命の維持に欠かせない食料等の備蓄は重要となる。また、避難生活に必要な防災資器材等の保管のため、防災倉庫の設置は必要性が高い。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	市域南部を中心とする応急給水対策、防災資器材等の南部地域への配置は、市が実施しなければならない。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	大量の飲料水をペットボトルで備蓄することが理想であるが、保管場所、賞味期限、経費等を考慮すると、循環式地下貯水槽に保存し、発災後必要な時に給水袋で配布する方法は、効率的といえる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	生命の維持に欠かせない飲料水の備蓄は、防災対策の中でも優先順位の高い事業に位置付けられる。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	小松島南中学校への耐震性貯水槽の整備により、市域南部への緊急時の給水能力が向上する。また、緊急一時避難場所のあいさい広場へ防災倉庫を設置することで、資器材等の分散配置が可能となる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	飲料水の備蓄についてはほぼ目標達成したが、今後、当該施設の適切な維持管理を進めると同時に、備蓄食料については、徳島県相互応援連絡協議会で策定した、南海トラフ地震等に対応した備蓄方針を基本として整備していく必要がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	5	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判断に至った理由	※当該事業は「完了」と判定する。 計画した事業については、目標どおり完了した。	
		2 現状のまま継続する	60～79 点				
		3 改善・効率化し継続	40～59 点	評価点			79
		4 終期設定し終了	20～39 点	2			
		5 完了・休止・廃止	19 点 以下				

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	5	1 拡 充 す る	判断説明	判定については一次評価と同様とする。今後は、本事業により整備した施設を活用し災害に強いまちづくりの形成を図っていくことが重要である。
		2 現状のまま継続する		
		3 改善・効率化し継続		
		4 終期設定し終了		
		5 完了・休止・廃止		